

## 日中経済交流研究会新聞

日中経済交流研究会 2022年12月2日(金)~3日(土)訪日団in神戸

## 日中国交正常化50周年

~日本三大中華街の一つで関西最大の「神戸・南京町」及び神戸華僑のルーツや歴史・華僑経営者から学ぶ、これからの日中のあり方~

報告者

(株) 廣記商行 特別顧問 (前社長)

山下 兼一 氏

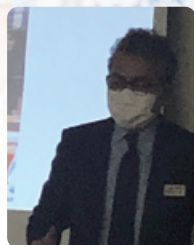
所在地: 神戸市灘区摩耶埠頭2番2

設立: 1953年10月

資本金: 1,000万円

従業員数: 130名

事業内容: 中国食材卸売業・味覇販売



## 株式会社廣記商行 訪問

今回は、株式会社廣記商行の山下特別顧問(前社長)に華僑の経営についてご講義いただいた。

廣記商行は家庭用中華調味料「味覇(ウェイパー)」を代表とした自社製品の製造販売から、中国料理食材をメインに、エスニック料理などの食材卸売事業の他、製麺事業、南京町での小売事業を行っている。創業は1953年、日本全国に5支店、得意先は5,000社以上、売上は130億円となっている。

取締役会長は鮑悦初氏であり、山下氏は30年にわたり、鮑会長を支え経営を横で見えてきた。会長の考えた経営理念は「悦びの創造」であり「明るく! 元気に! 爽やかに!」を我々一人ひとりのありたい姿として経営をしてきた。何よりもあいさつを明るく元気にするということが社風として定着している。

細部にこだわるのが大事として「疑問視・否定視・客観視」「結果はすべて必然」・「結果はすべてつながり」、「現状維持、即後退」=「現状維持、即交代」として「人生には夢を、夢には目標を、目標には計画を、計画には考動を、考動には目的を」ということを学んだ。

## 南京町・老祥記 訪問

二人目は南京町商店街振興組合の曹英生理事長である。曹さんは豚饅頭発祥の店として有名な老祥記の社長でもある。南京町は居留地に対する雑居地として、戦後発展を遂げてきた。現在では神戸は横浜・長崎とともに日本三大中華街の一角を担っている。

1995年には阪神大震災が起こった。街の中が暗いのは恐ろしい。春節祭は中止。神戸の人たちはあたたかいものを食べていないので、炊き出しを行った。我々のテンションも上がった。セトモノ市、漫才、落語をして明るくならなあかんと思い、神戸五月祭りも行った。龍もサンバも出して民間の力で盛り上げようと思った。神戸に観光に行っても大丈夫や! 神戸ルミナリエは復興のシンボルであり、見て感動して泣いた。「自粛を自粛する」がキーワードだった。

コロナ禍の影響として緊急事態宣言が発令され店が9割閉まる。支援で食いつないだのが実感である。老祥記も赤字が続いて、まずいと思っていたところ、商店街振興組合で、

報告者

南京町商店街振興組合 理事長/老祥記 代表取締役

曹 英生 氏

所在地: 神戸市中央区元町通2-1-14

設立: 1915年

従業員数: 25名

事業内容: 豚饅頭販売



SNSでのZoom勉強会を行った。太極拳、ヌンチャクリレーなどを企画として行った。結果としてYouTubeからお金をもらえることを知る。紹介する動画YouTubeも行った。落ち着いたたくさんの人が来てくれている。実はインスタには非常に力を入れている。

「南京町」を商標登録しているので企業からお金をいただける。組合活動は人のためには続かない。自分のためにやらんと続かない。でも結局人の喜びが自分の喜びになっている。

## 孫文記念館 訪問

孫文(1866-1925)は近代中国を代表する偉人であり、彼が目標としたのは、まず中国の改造を成し遂げて、さらに平和な世界をつくり上げることだった。

海外に亡命した孫文が、革命活動の主たる根拠地としたのは日本だった。中国同盟会も中華革命党も本部は東京に置かれ、華僑・留学生、さらには有志の日本人がその活動をいろいろと支援した。彼が「日本を第二の故郷」とまで言ったゆえんである。そして1924年秋に神戸で行ったいわゆる「大アジア主義」講演では、日本が武力侵略の道を捨てて、中国と協力して新しい平和な世界をつくるよう呼びかけた。この呼びかけは、100年に近い曲折した年月を超えて今に生きていえる。

今回訪問した移情閣は元々孫文を支援した呉錦堂氏の「松海別荘」であったが、現在は重要文化財に指定されており「孫文の生涯」「日本と孫文」「神戸と孫文」「移情閣」「呉錦堂」

の五つのテーマに基づき、関係の写真パネルや孫文直筆の書やゆかりの品々を展示している。



日中経済交流研究会 広報委員会

文: 矢本公認会計士事務所・清友監査法人 矢本 浩教